

平成28年度第3回花巻市健康づくり推進協議会会議録

1 開催日時

平成29年3月14日（火）午後1時30分～午後2時30分

2 開催場所

花巻市南万丁目970番地5

花巻保健センター1階 多目的ホール

3 出席者

(1) 委員 17名

三浦委員、杉原委員、葛巻委員、中沢委員、八重樫委員、佐藤(正)委員、鎌田委員、晴山委員、小田島委員、伊藤委員、坂本委員、佐々木委員、菅原委員、小山田委員、佐藤(勝)委員、小瀬川委員、藤原委員

(2) 市・事務局 9名

熊谷健康福祉部長、佐藤健康づくり課長、植田課長補佐、晴山課長補佐、高橋主任主査、久保田主任主査、小原係長、及川係長、小綿主査

4 会議の概要

晴山課長補佐の司会進行

職員紹介 晴山課長補佐が職員の紹介を行った。

(1) 開 会

晴山課長補佐が、協議会の開会を行った。

(2) 挨拶

熊谷健康福祉部長が挨拶を行った。

市長は東京の方に出張しておりますので、私の方から挨拶を申し上げます。

本日は公私ともにお忙しい中、第3回花巻市健康づくり推進協議会にご出席をいただきましてまことにありがとうございます。

本協議会でございますが、例年、年2回の開催としておりましたが、今年につきましては健康はなまき21プランの中間評価の年ということで3回目の開催となっております。委員の皆様のご支援に感謝を申し上げます。

また皆様方には、常日頃から市の健康づくり事業に、なにかと、ご支援、ご協力を賜りますことに、まずもって感謝を申し上げます。

本日の会議でございますが、健康はなまき21プランの中間評価の成案についてと、また28年度の保健事業の第3四半期現在の状況につきましてご説明を申し上げますこととしてございます。21プランにつきましては、27年度から中間評価

をし、様々な皆様方のご意見を頂きながら本日の成案についてご審議をいただくこととなります。また保健事業につきましては、ほぼ完了はしてございますが、途中経過の状況についてご説明をいたしますので、委員の皆様方からご忌憚のないご意見をいただきますようお願いを申し上げます。現在の委員の皆様方の任期が本年の8月19日ということで、今回の委員の皆様方の協議会はこの場ということになります。いずれにしてもご審議について皆様方から様々な立場からのご意見をいただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。簡単でございますが、開会にあたりましての挨拶とさせていただきます。

(3) 協 議

三浦会長を議長として進行

三浦議長

会議に先立ちまして、花巻市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、本会議を公開とすることにご異議ございませんか。

異議なしの声あり

三浦議長

異議なしということですので、本会議は公開といたします。

- (1) 「健康はなまき21プラン」の中間評価について
及川係長・小綿主査が説明を行った。

三浦議長

今の説明について質問したいことがあればお伺いいたします。

質問なし

三浦議長

「健康はなまき21プラン」について委員の皆様から何か一言ずつご意見を伺いたいと思います。

杉原典子委員

各分野、各年代に応じて良く作られていると思いました。保健推進委員協議会としましても先生方からご協力をいただきまして保健大学等好評で、今年度も前よりも会場を大きくして計画しております。

葛巻睦子委員

高齢者に関わる業務として、引き続き元気で暮らしていただけるためのお手伝いをしていきたいと思いました。食育に関しては農業の生産者団体ですので、小さいお子様から大人までの食育に関わっていきたいと思います。

中沢 悟委員

資料2の、こころの健康について「どこに相談すれば良いか分からない」というご意見があり、まだまだ頑張っていかなければと思います。喫煙対策では禁煙が広がっていないということで、保健所としても頑張っていかなければと感じました。

八重樫寿人委員

口腔保健の所ですけど、30ページの8020達成者の367人はどこから出てきたデータでしょうか。

三浦議長

今お答えできますか。それでは後でお願いします。

佐藤正昭委員

後半に向けて今回制定されたところで進んでいただければと思います。ただ成果とか数字が出てきますが、こだわりながらこだわらないということが大切だと思います。一人ひとりの健康に対する意識づくりと思いますから、子供からそういう意識の涵養を図っていくことで取り組んでいただければいいのかなと思います。

鎌田省三委員

最近の学校保健で課題として大きくなっていることは、メディア利用です。スマートフォンとかゲーム機を遅くまで使って生活が乱れて学校に行けなくなる。今後この件はますます大きくなるのではないかと思いますので、この点についても今後取り上げていただければと思います。

晴山淳子委員

資料2の最後のページで「計画の実施について指示系統があれば動きやすい」とありますが、いろんな団体から委員になっていますが、実施の段階になるとどのように動いていかならないところがありますので、連携を取れるような詳しい方向づけとか分かれば動きやすいと思いました。

小田島克久委員

この計画の着実な推進のために協議会委員として、また組織として連携していきたい。

伊藤成子委員

目標が結果を踏まえて、今後具体的にどのように動けばいいのかといことがしっかり分かって、皆が協力しながらもっと市民の健康づくりにお手伝いできればと思います。具体的にどのようなお手伝いをすれば良いのか教えていただければと思いました。

坂本秀樹委員

地域医療の充実のところで、かかりつけ薬局・薬剤師を入れていただいております。日々いろいろな相談が増えていますけど、その窓口となれるように健康に対するアドバイスや受診勧奨、セルフメディケーション等勉強しているところですので、それを地域の皆様にしかり情報伝達できたらと思います。介護の方も地域連携ということで多職種の方と連携を取りながら、住民の相談に対して介護のサポートをしかりやりたい。

佐々木美香委員

地域医療の充実のところで、かかりつけ薬局・薬剤師を持つというところの指標が「かかりつけ薬剤師を知っている人の割合」とありますが、誤解されないかなと思いました。「かかりつけ薬剤師を持っている人の割合」なのかなと捉えたのですが。

及川係長

最初は「かかりつけ薬剤師を持っている人の割合」と考えておりましたが、出来たばかりの制度であり、かかりつけ薬剤師になるにはいろいろな条件があって、薬剤師さん皆がかかりつけ薬剤師になれる訳ではないので、まずはかかりつけ薬剤師という制度自体の周知を行うことにしたので、「かりつけ薬剤師という制度を知っている」を指標としました。

菅原哲子委員

食改協のところで、全体的に高齢化して若い人が地区にいなくなってきて伝達講習の実施回数や受講者数も少ないと思いました。伝達講習会が少ないので保健センターの栄養士も地域に出向くとかできないのかなと感じました。高齢化してくるとカタカナ言葉も理解しにくくなってきますので、いろんな言葉が新しく出てくるのでそういう言葉を知っているかといわれても分かりにくいのではないかなと思いました。特定保健指導のところで受診率は 51 パーセントで良いと思いますが、特定保健指導実施率は 19.7 パーセントで、重症化予防のための個別指導実施率が 60 パーセントとなっています。保健指導というのは集団指導のことでしょうか。

小山田雅一委員

医療費の状況について入れていただきありがとうございます。一人当たりの医療費が右肩上がりで伸びています。アクションプランに基づいて病気を予防することで活動すれば右肩下がりになって、余ったお金を違うところに使えるので取り組みよろしく願いしたい。

佐藤勝士委員

身体活動・運動のところの関係機関の取り組みの中に学校が入っていない。特に小中高の女生徒さんの動きが下がっているので、こういうところで取り組んでもらえばいいのかなと思います。ただし、スポーツ推進計画にそれが載っているのかどうか、載っているのであればこちらでは必要ないのかなと思います。

小瀬川ちはる委員

食育の家庭での取り組みの文言「家族そろって食事をします」というところがあるので、今の社会状況は全員が食卓を囲んで食べられるのかなと思います。「家族そろって食事をします」ではなく、もう少し柔らかい「食事をしましょう」とか促す形の方がいいのかなと感じています。

藤原美鈴委員

健やかな成長を願って親の意識が高められるように現場で活かしていければと思います。

三浦議長

それでは当局からお願いします。まず八重樫委員の質問は。

及川係長

8020の達成者につきましては、歯科保健大会で行っています8020の表彰で歯科医師会の先生方から推薦された人数です。

三浦議長

菅原委員のご意見に対しては。

小綿主査

地域での市民に対する伝達講習会につきましては、食生活改善推進員に普及していただいている事業になります。役割を明確化しており、食育関連の若い世代を中心とした事業につきましては、栄養士が出向いて食生活改善推進員さんと一緒に普及しています。28年度の見込みは年間36回、参加人数延べ1,000名となっております。役割を明確化とは地域の方には地域の食生活改善推進員から普及していただき、栄養士については若い世代を中心とした食育を進めてまいります。

伊藤成子委員

食生活改善推進員も高齢化してきたということで、各地域で推進員が不足してきて、知っている人がいれば参加を呼びかけて活動しています。伝達講習会の回数が減ったのは、一昨年までは年2回のスキルアップ講習があったものが1回になり、後の1回は全体への講習になったため、伝達講習の回数が減ったと思います。

三浦議長

小瀬川委員の言い方の柔らかさは、今から変えることはできないのですよね。

熊谷健康福祉部長

家族がそろわないことは現実なので、そこを無理してまでという姿勢ではありません。例えば一家そろった時に、一緒に食べてお話ししながら、この食べ物おいしいねとか、この食材は何かなという会話が少なくなっているものを、少しでもそういった時間をとりましようという趣旨です。

小瀬川ちはる委員

分かりますが、一般のお母さん方はそのように取らないでストレートに取ってしまうことがあるのかなと懸念しました。

熊谷健康福祉部長

計画の推進体制は、家族としてこうしようという意識で、「食事をします」という表現をしていますので、こちらからのお願いではなく家庭としてこういうことに取り組むという立場で書いています。

三浦議長

プランは健康寿命を延ばしていくということが究極の目的だと思います。8ページの死因で多いのは男女ともがんです。皆はがんになると大変だと分かっていますが、16ページのがんの検診率は相変わらず低いです。がんの検診率の啓発を皆なでしていかなきゃいけないのかなと思います。もちろん脳卒中の予防で食育とか血圧を測定するもありますが、まずがん検診の受診率を上げたいと医師会では思います。健康づくりの推進では現状の見方や課題の取り上げ方、取り組みの対策は今まで積み重ねてきた事なので良く考えられていると思います。33年の頃にはいい結果が出ていると思います。本当に皆さま、お疲れさまでした。

他に何かご意見がございますでしょうか。

佐藤勝士委員

23ページの身体活動・運動のところ、関係機関の取り組みの関係機関に学校は入らないのですか。

熊谷健康福祉部長

一部スポ少等は地域活動に該当すると思いますが、この身体活動は地域での活動に視点を置いての考え方ですので、学校は入れていませんでした。

佐藤勝士委員

先ほど子どもの体力が落ちている話をしましたが、これはどこでやることなのか、スポーツ推進計画等に入っているのであれば良いのですが、入っていないとすれば入れるべきと思います。

熊谷健康福祉部長

ここの健康分野のところは、体を動かしましょうということの視点の中での項目です。

三浦議長

その他にございますか

熊谷健康福祉部長

一人当たりの医療費について、市の状況としては上がってはいますが、県全体で見ると花巻市は平均より下の方です。皆さんが健康に留意しながら、医師会や歯科医師会の先生方のご協力により、そのような状況になっているのかなと思います。

三浦議長

医療費が高くなるのは、高齢化で受診率が上がっている他に、薬が高くなっているとか、高い検査が増えているとかいろいろな要因が絡んで一言では言えないです。

(2) 平成 28 年度保健事業実施状況について

植田補佐が説明を行った。

三浦議長

保健事業実施状況について何か質問のある方はございますか。

質疑は無く、(3)の協議を終了し、議長は退席した。

(4) その他

晴山課長補佐が、「その他」について委員に諮り、委員からは何もなかった。

晴山課長補佐

現在の委員で開催する協議会は今回が最後と思われること、新年度になりましたら新委員の推薦依頼をする旨を説明した。

(5) 閉会

晴山課長補佐が閉会を行った。